

日本リハビリテーション 病院・施設協会誌

Japan Association of Rehabilitation Hospital and Institution

196号

2025年9月発行



■ 巻頭特集

リハビリテーション医療における 医療・介護DXの方向性

■ レジエントに聞く ～地域リハビリテーションの過去・現在・未来～

澤村 誠志 日本リハビリテーション病院・施設協会 名誉会長

■ REPORT 令和7年度定時総会 議事録 ■ 新連載 仕事と育児の両立

ZOOM IN 会員病院・施設

医療法人社団保健会 東京湾岸リハビリテーション病院



一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

CONTENTS

3 巻頭特集

リハビリテーション医療における 医療・介護DXの方向性

10 レジェンドに聞く ～地域リハビリテーションの過去・現在・未来～ 第2回

患者・地域から学び、総合リハ・地域リハを推進
先進国を22年にわたり視察し義肢装具の国際活動もリード

澤村 誠志

17 巻頭言

地域包括ケア推進病院として今思うこと

志田 知之

18 REPORT ❶ 日本リハビリテーション病院・施設協会
令和7年度定時総会 議事録

24 連 載 仕事と育児の両立 第1回
両立体制のアップデートの3つのポイント
林田 香織

26 トピック ❶ 地域における臨床研究のススメ17
観察研究におけるバイアスへの対応 応用編
紙谷 司

28 CURRENT TOPICS 厚労省関連ニュース

33 ZOOM IN 会員病院・施設
医療法人社団保健会
東京湾岸リハビリテーション病院(千葉県)

38 Information



地域包括ケア推進病院 として今思うこと



志田 知之

日本リハビリテーション病院・施設協会 理事
医療法人天心堂志田病院 理事長・院長

医療と介護の連携強化が叫ばれて久しいですが、その真の実現には現在なお多くの課題が横たわっています。制度として「地域包括ケア」が整備されても、地域の現場における実装は一律ではなく、人的資源の確保、財源の安定性、サービスの持続性といった課題は、むしろ現場に深く根を下ろしています。

現行制度は、一定の成果を挙げてきた一方で、現場にいる私たちは「制度の論理」と「生活者のリアル」との間にギャップがあることをしばしば実感します。例えば、急性期病院から在宅復帰までの流れは制度上はスムーズに描かれているように見えても、患者さん一人ひとりの生活背景や家族状況を考えると、画一的な支援では対応しきれない現実があります。

私たちはそうした「制度に収まりきれないニーズ」に日々直面しながらも、何とか答えを見出そうと努力しています。多職種が連携し、行政とも手を取り合い、地域資源をかき集め、患者さん一人ひとりの「その後の人生」に寄り添う—それが、私たちリハビリテーションの現場に求められている仕事です。

これからの医療政策には、現場からの「小さな声」を丁寧によく上げる構造が不可欠だと思います。

ます。数値化されたデータやモデルケースだけでは語りきれない、泥くさい実践のなかにこそ、制度設計のヒントが隠れていると考えるからです。現場は単なる制度の「受け手」ではなく、制度立案の「担い手」であるべきだと思います。

日本リハビリテーション病院・施設協会の大きな役割の一つも、まさにそこにあるのではないのでしょうか。全国の現場で実践されている知恵や工夫、時には苦悩も含めた「生の声」を集約し、それを国に伝える。そうした動きを絶やすことなく続けていくことが、持続可能なリハビリテーション医療の未来を支える礎になると信じています。

私が理事長を務める医療法人天心堂志田病院は、その一端を担うべく、地域に根ざした取り組みを続けてまいりました。そして、本年、私たちは創業100周年という節目を迎えました。病院は単なる建物ではなく「人の営み」自体であることを、私たちはこの100年の歩みから学びました。制度が変わろうとも、地域がどう変化しようとも、暮らしを支える医療の本質に変わりはありません。

次の100年も、医療の現場から地域を支える「志」を持って、地域に根を張り、未来を切り開いていきたいと思っています。



**※このページ以降の誌面をご覧ください。場合は、
当協会への入会が必要です。**

ご入会のお手続きは下記へ



【入会について】

<http://rehakyo.jp/about-join>